

遊びから始まる物語

年長

2026年3月



右の写真は、お砂場を「ゴミ置き場」、砂を「ゴミ」に見立て、青いゴミ収集車に集めるという、ごっこ遊びをしているところです。



収集車の仕組みを自分達で想像しながら「上から下に落ちるようにすると、処理しやすいかも！」と、ハンドルにスコップを掛けて取りやすくしたり、改造したりしていました。

また、現場監督らしき男児が「ゴミをこぼしてるよ～、気を付けてください」と厳しく声掛けすると周りの子ども達は「はい！」と応えていました。すると、「ゴミ収集の活動は長いからねー！」と、労働の大変さを表現する姿に、子ども達の社会の見え方が垣間見られて面白かったです。

入室の時間になると「今日の活動は終わり～！お疲れさまでした」と言って片付けに入る子ども達に「お疲れさまでした」と思わず声を掛けたくなるくらい、上手なごっこ遊びでした♪



ある男児が、発芽した木の実を見つけ「お豆さん！！」と名付け、嬉しそうに持ち歩いていました。

時には、友達に「見せてー」と言われたり、時には、落として転がったりしていたので、いつの間にか迷子になってしまいました。突然の別れに「いなくなっちゃったー」と号泣。

「きっとお豆さんは自分のお家に帰って、お昼寝をしているから、また会いたくなって、お願いすれば会いに来てくれるはず」と、なんとか慰め、その日は降園しました。

そして、次の日！！

どうしても会いたいという気持ちが届いたのでしょうか？！ それとも探し回ったのでしょうか？！

満面の笑顔で「ジャジャーン」と見せてくれた手の平に、お豆さんが！！

思いの強さは本当に届くのさ、と感心した出来事でした。

